2．大阪府における生物多様性の現状と課題

（1）大阪の自然環境

大阪の生き物と生物多様性の３つの階層

○生物多様性には、「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」という３つの階層があり、それぞれの階層が健全に守られることで、豊かな生物多様性が成立しています。

『生態系の多様性』
さまざまな環境にそれぞれの生態系が成立していることです。大阪でも森林、海、都市などそれぞれ特徴的な生態系が成立しています。各生態系は独立したものではなく、他の生態系とゆるやかにつながっています。

『種の多様性』
生物の種ごとの違いを示すものです。大阪には8,700種以上の生き物が生息しており、それぞれに異なった特徴をもち、生息環境へ様々に適応して暮らしています。

『遺伝子の多様性』
同じ種の生物でも個体や群れで遺伝子の違いがあることです。多様な個性が生じ、環境への適応力にも影響します。全国的に分布する生物でも各生息地の個体や群れが保全されることが重要です。

○府内において多様な生き物が生息する一方、大阪府レッドリスト掲載種数は2000年から2014年の間に約2倍に増加しています。

大阪府レッドリスト掲載種数の変化

年度	2000年	2014年
掲載種数	795	1485

大阪に生息する多様な野生動植物種

ヒロオビミドリシジミ
（府絶滅危惧Ⅰ類）
三草山が日本における分布の東限

ハッチョウトンボ
（府絶滅危惧Ⅰ類）
平地から低山地の湿地や湿原に生息

オオサンショウウオ
（府絶滅危惧Ⅱ類、環境省Ⅱ類）
特別天然記念物であり、
府内北部の河川等に生息

コアジサシ
（府絶滅危惧Ⅰ類、環境省Ⅱ類）
夢洲で営巣が確認されている

イタセンパラ
（府絶滅危惧Ⅰ類、環境省ⅠA類）
天然記念物であり、
淀川、富山、濃尾平野にのみ生息

オグラヌマガイ
（府絶滅危惧Ⅰ類、環境省ⅠB類）
淀川ワンドの軟泥底に生息

カヤネズミ
（府準絶滅危惧）
巣を作るためのイネ科植物が
茂る草原に生息

ミゾコウジュ
（府準絶滅危惧、環境省準絶滅危惧）
田んぼの縁や河川敷などの湿地に生える

ワンドスゲ
（府絶滅危惧Ⅰ類、環境省Ⅱ類）
大阪府と熊本県の
限られた地域にのみ生息

ニホンアカガエル
（府絶滅危惧Ⅱ類）
単独で生活。普段は草むらや森林、
平地丘陵地等の地上で暮らす

サギソウ
（府絶滅危惧Ⅱ類、環境省準絶滅危惧）
日当たりのよい湿地に
自生する野生のラン

オオサカサナエ
（府絶滅危惧Ⅱ類、環境省Ⅱ類）
幼虫が大きな河川の
砂泥のあるところに生息

- 大阪には8,700種以上の生き物が生息し、森や里、川から海にいたる多様な環境に、お互いにつながり合いながら生きています。
- そのうち1,485種が保全すべき生き物として「大阪府ﾚｯﾄﾞﾘｽﾄ2014」に掲載されています。その中には全国でも生息数が減少していて、環境省のﾚｯﾄﾞﾘｽﾄにも掲載されているものや、分布上大阪が重要な生息地である種も多く存在します。一方で、温暖化の進行に伴い、生物分布など生物相互関係が変化することで、生物多様性に悪影響を及ぼす可能性が懸念されています。

（写真提供：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センター、大阪府立大学、（公財）大阪みどりのトラスト協会）